

佳作 介護の仕事に対する私の思い



チョー マー ウー
CHO MAR OO
国 籍 ミャンマー
職 種 介護
実習実施者 医療法人白水会
監理団体 GTS協同組合

私の父は公務員で、母は主婦です。兄弟は4人で、私は一番下で「ミーミー」と呼ばれていました。私が高校生の時に父は目が見えなくなり、母は病気で左半身麻痺になりました。母が亡くなった後、家には父と私の2人だけが残り、兄と姉たちは仕事のために別々に暮らしました。私は毎日父の世話をしながら高校に通い、ボランティア活動をしました。

私が28才の頃に父が亡くなりました。

その後電気工場で働き、休日はボランティア活動続けました。その頃将来のことを考え始め、外国で働いて家族を支えたいと思うようになりました。そして、私は日本で介護の仕事をするために、仕事を辞めて日本語の勉強をしました。日本語の授業料は、私の上の姉が出して支えてくれました。日本語はとても難しくて毎日勉強してやっと、「N-5」と「N-4」を合格しました。

介護の仕事の面接は2回目に合格しました。その時私はとてもうれしかったです。介護の仕事をしながら家族を支えることが出来るからです。

2020年2月3日に母国を出て翌日、日本に着きま

した。就職する前に ARMS 研修センターで日本語の勉強をして、日本の規則を学びました。ARMS 研修センターでいろんな仕事で日本に来た外国人と友達になりました。

2020年3月4日に白川病院に就職しました。私は新しい所で働くので少し心配でしたが、「仕事で間違えないように気をつけよう」「注意しよう」「病院のルールを守って頑張ろう」と決めました。病院に着いた時、院長と職員の方が私たちを歓迎してくれたので、とてもうれしかったです。白川病院の技能実習生は5人で、ミャンマーから3人、カンボジアから2人来ています。就職して1ヶ月間は見習いで仕事をしました。優しい上司や先輩が介護の仕方を教えてくれました。介護の仕事がとても好きになりました。仕事は早番と遅番と夜勤があります。最初は慣れませんでした。毎日頑張りました。

一人でさみしくないけれど、時々家族が恋しいです。でも好きな介護をしているのでとても満足しています。私の夢は、母国で介護事業所を開き、亡くなった父と母のような他人を助けることです。夢をかなえるために一生懸命頑張っています。

介護の仕事はとても大変です。なぜなら、他人の排泄物や汚れた物を「汚い」と思わずに仕事をする、もう一つはどんな患者さんでも私たちは優しく接する必要があるからです。それには我慢も必要です。

私にとって「介護」は、患者さんに純粋な心を持って、どんな患者さんにも優しく接することです。私が幸せで優しい介護をすれば、その気持ちが患者さんに伝わり患者さんを幸せに出来ます。私はそんな介護が出来るように、どんなに大変でも頑張ります。